



vol.04
2011.06.15

「小特集」

「ホラ、ホラ、これが僕の骨だ」

橘上……4
all about がっつあん
山田 亮太……10
忘却
カニエ・ナハ……11
鐘風庭

「寄稿」

小峰 慎也……17
福岡さんの方法
大崎 清夏……18
らくだは苦もなく砂丘になる
岩尾 忍……20
あなたがいるだけで／What are you doing, now? 十首
榎本 櫻湖……23
芝生の裏のパゴダうさぎ／歌謡曲・タクラマカン鼻毛
海埜 今日子……26
悪寒——わたしに図星だとそよいでいた——

「骨おりダンサーズつ」

兼梶 綾……35
歌謡

疋田 龍乃介……36
犬でもできる

金山 大地……39

(続) 失題、即ち闘争マシーン漂流記

吉田 恭大……47
鳥と魚

金子 鉄夫……48
蕩児レッスン

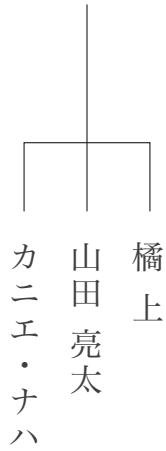
「連載」

小田原 のどか……50
むりえわ
萩野 亮……55
批評と詩のあわいで——飛びこむことについて

「イベント告知」……56
「編集後記」……57

04

「
「ホラ、ホラ、これが僕の骨だ」
」



all about がいつさん

橘上

がいこつさんがねています。目をあけたままねているのかというとそれはちがいます。

あれは穴^{あな}です。目^めではありません。

いずれにせよ がいこつさんは ねています。

ただ ぐつすり ねているかというところ

どうでもありません。

ときどき ねがえりをうつところをみると

どうも よくねてはいないようです。

がいこつさんは、遠い昔に他の祖先とは別の進化を歩み、たいへん不思議な形態をもつに至った動物である。もつとも大きな特徴は、歯をもたないことだ。彼らの歯は一生のあいだに何度も生えかわる。一生伸び続ける歯は使ったびに折れたり、切れ味が悪くなったりするが、定期的に脱落して新しい義歯と交換されていく。捕食に必要な金属歯を次々と用意することができる、特殊な交換様式を発達させているのだ。

このような歯の形態は、餌の内容を臨機応変に変えて生活することを可能とし、彼らの分布域が世界に広がった理由の一つになっている。

がいこつさんの属名 *Procavia* は「バイタリウムの祖先」という意味を持つ。

かつては「貧^{ひん}歯^し目^{もく}・*Edentata*（歯がないものたち）」と呼んでいた。

がいこつさんは名前のとおり、アリを主食とする。ほとんどの雑食性で、哺乳類から昆虫、木の実や果実など植物質のものまで餌とする幅広い食性をもつ、肉食動物として進化したにもかかわらず、草食に転向した動物だ。

彼らは獲物をとらえると、嚙まずにほとんど丸呑みにするか、飲み込める大きさに嚙み切り、そのまま飲み込む。草を食べる際には頭部を傾け、舌で口の中に引き込み、臼歯^{きゅうし}でちぎり取るという原始的で効率の悪い方法をとる。

がいこつさんは超音波による探知能力（エコロケーション能力）を高度に発達させている。発生させた超音波はビームのように、同種間の闘争のための武器としても重要な役割を担っている。これは同種間の闘争において、相手に致命傷を与えないようにするための進化だと考えられ、無用な争いを避ける効果があり、闘争の儀式化をもたらしめている。場合によつては一方が、もしくは両方が死に至るほどの激しい闘争をする。毒のないがいこつさんは嚙みついてから絞め殺す。一方、猛毒をもつがいこつさんは、毒により獲物を死に至らしめることができるため、カルシウムを貯蔵する。がいこつさんはこのようなユニークな構造を発達させたことで、「耳で見る」といつてもいいほど、においによってコミュニケーションをとる。

水中から陸地、樹上と、その生息域は、極地を除いたほとんどすべての場所であるといつていいほど多様性に富むが、その一生のほとんどを水中で過ごし、

木の枝にさかさまにぶら下がりながら生活する。その体の構造は高度に水中生活に適応しているが、草原に進出して生活している。じつはがいこつさんにとって、堂々と開けた土地で生き延びていくことは容易ではない。一生を過ごす地中という極端で特異な空間では浮力が働いたため、重力に耐え得る強い骨格は必要なく、一方で、水は空気に比べて大きな密度をもつため、そのなかで生活するがいこつさんは、受ける抵抗の小さい流線型を基本とする方向に進化している。

——どこかへ行くの忘れていたかな。誰かがどこかで待っているの忘れていたかな。

いやいやもうそれはない。たしかに待っていたひともいたけれど、それはもうずっと昔の話。

——それもそうだな。

がいこつさんがとる移動方式は四肢による走行ではなく、後肢こうしによるジャンプだ。そのため水中では優雅に泳ぐことができる彼らだが、陸上ではこの後肢はほとんど機能しない。移動する際には腹ばいで胴体を伸縮させながら前に進むことになる。狩りをするため、四肢はすべて鰭ひれ型に変形し「走る」ことに適している。よって重力にまかせた、さかさまにぶら下がりながらの移動は無駄なエネルギー

エネルギーを消費しない、都合のよい移動方法なのかもしれない。

がいこつさんの祖先は地上を軽快に走っていたと考えられる。その動きは極端に遅く、まるで木の葉のようなカモフラージュ効果をあげている。実際がいこつさんは、普段の動きからは想像できない敏捷さで地上を駆けることができ、速いもので時速 18 km に達する。

翼は軽量化されたシンプルな構造となっているが、ほかの脊椎動物と同様に、ファイバーコア、金合金、大白歯、仮ジャケット冠から構成されている。肘から下をねじって動かすことができ、手首は自由に回転する。複雑な社会構造をもつ群れのなかで優劣を示すサインともなる。

多くの種は一見してがいこつさんだとわかる形態をしている。しかしそれぞれの種は、限られた範囲内ではあるが、その生態にあつたさまざまな形態に進化している。

――頭をさっぱりするの わすれていたかな。

まさかのまさか。がいこつさんじゃ はさみもくしもすべっちゃう。

――それもそうだな。

頭部は体のサイズに比べると不釣り合いなほど大きい。頭蓋は大きな獲物を飲み込むための口と、発達した眼球を収めるための空間が目立つ。口は鉛筆の直径ほどしか開くことができない。眼球は大きくほぼ球形をしていて、前方と上方を向いており、水中での視野の確保に適している。鼻面はきわめて長くなっている。また雄と雌で大きく異なる外見をもつ。さらに、左右で異なった動きをする出っ張った口ポットのような目、ゴムのように長く伸びて虫を捕らえる舌、スローモーションのようなのろまな動きと、キツネのような面構えとなっている。

いかにも凶暴な面構えにみえ、うねりや枝分かれをもった複雑な形をしていることが多い。私たちとは異なる得体の知れない動物のようにみえて忌み嫌う人も多い。なぜこの仲間だけがこのような形態になったのかは、よくわかっていない。しかしこの特徴的な形態は、肉体を失った骨として生きていくために重要な意味をもつ。世界中にがいこつさんが分布しているところを見ると、厳しい自然のなかで生き抜くことのできる成功した形態のひとつだといえるかもしれない。

知能の発達が特徴としてみられ、もっとも進化した動物であるかのように思われている。4000万年〜2000万年前には多様性に富んで繁栄していたが、種としての最盛期は過ぎ、徐々に衰退の一途をたどっている。

江戸3年3月1日になると、ほとんどの種は絶滅した。

—— 忘れていること いったいぜんたい なんだろう

果てしなく深い闇の黒

強い光の白

わずかに差し込む太陽の光

柔らかい光を表現する永遠を感じさせる世界

宇宙の闇で息を潜めていた惑星が

かすかな光によってその姿をあらわした瞬間、

器用に使うことができる手も手に入れた

まるで、手のような足だ

あれは穴です 目ではありません

骨たちは、より深い闇のなかに沈みこむことになったが、

「風から栄養をとって生きている」

では おやすみ

※この作品は全文、「がいこつさん(五味太郎／文化出版)」、「BONES 動物の骨格と機能美(湯沢英治・写真 東野晃典・文、構成／早川書房)」、「山田亮太診査表」からの引用でのみ、つくられています。

忘却

山田 亮太

H23年3月1日

頭蓋、口蓋方軟骨・下顎軟骨、骨格、骨格、骨格、骨格、目をあけたまま

頭蓋、骨格、頭蓋、あれは穴です

頭蓋、頭蓋、骨格、骨格、頭蓋、頭蓋、ただぐっすりねている

頭蓋、骨格、卵殻・卵殻、頭部骨格、腰部骨格、左前肢骨、胸部骨格、体幹骨格、ねがえりをうつ

胸骨、上腕骨、左側大腿骨、頭蓋、頭蓋、頭蓋、頭蓋、頭蓋、頭蓋、頭蓋、頭蓋

頭蓋、頭蓋、頭蓋、頭蓋、頭蓋、気になることがある

H23年3月2日

左後肢端骨格、左後肢端骨格、左後肢端骨格、左後肢端骨格、なにが気になっているの

左後肢端骨格、左後肢端骨格、骨格、骨格、骨格、なにか忘れていているような気がする

骨格、骨格、骨格、頭蓋、左前肢端骨格、なにを忘れていているの

後肢帯、骨格、頭蓋、ちゃんと思ひ出さないと

下顎骨、左後肢端骨格、左後肢骨、頭蓋、骨格、骨格、なにか忘れていていることがある

H23年3月3日

頭蓋、頭蓋、下顎骨、頭蓋、後肢骨格、骨格、思い出せません

骨格、頭蓋、頭蓋、下顎骨、頭蓋、脊柱・寛骨、右前肢端骨格、きつと思ひ出すでしょう

頭蓋・右前肢端骨格、左後肢端骨格、左後肢端骨格、頭蓋、忘れていているのなんだろう

H23年3月4日

頭蓋、下顎骨、骨格、下顎骨、前肢帯、電話をかける

H23年3月5日

左前肢端骨格、骨格、手紙を出す

骨格、骨格、頭蓋、下顎骨、左前肢端骨格、骨格、忘れていていること

前肢帯、頭蓋、下顎骨、左前肢端骨格、頭蓋、頭蓋、頭蓋、頭蓋、頭蓋、頭蓋、頭蓋

下顎骨、忘れていていることなんでしょう

H23年3月6日

右前肢端骨格、右前肢端骨格、頭蓋、頭蓋、どこかへ行く

頭蓋、下顎骨、左後肢端骨格、左前肢骨、骨格、頸椎

尾椎、腰椎、頭蓋、誰かがどこかで待っている

下顎骨、頭蓋、骨格、忘れていた

左前肢端骨格、頭蓋、下顎、頭部骨格、頭蓋、なんだか思ひ出しそうな気分だぞ

H23年3月7日

頭蓋、頭蓋、頭蓋、頭蓋・頸椎、思ひ出したぞ

胸椎・肋骨、忘れていたのはあれか

頭蓋、頭蓋、頭蓋、下顎骨、左前肢端骨格、頭蓋、頭蓋、そんなこと忘れてしまうなんて

下顎骨、右前肢端骨格、頭蓋、頭蓋、右前肢端骨格、これを忘れちゃ

H23年3月8日

頭蓋、骨格、頭蓋、下顎骨、脱落した臼歯、右前肢端骨格、左4及び右4損傷

セラミックス充填 84,000 円×2 = 168,000 円、頭蓋、下顎骨

左7及び右7損傷、金合金充填 52,500 円×2 = 105,000 円、頭蓋、鱗甲板

頭蓋、骨格、右6損傷、ファイバーコア 26,250 円、金合金大臼歯 68,250 円

仮ジャケット冠 8,400 円、計 94,500 円、なぜこの仲間だけがこのような形態になったのかは

よくわかっていない、合計 367,500 円——— 忘れていていること いったいぜんたい

なんだろう

sho-fu-tei

鐘風庭

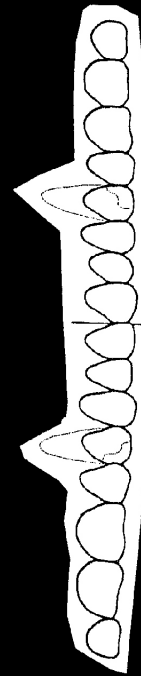
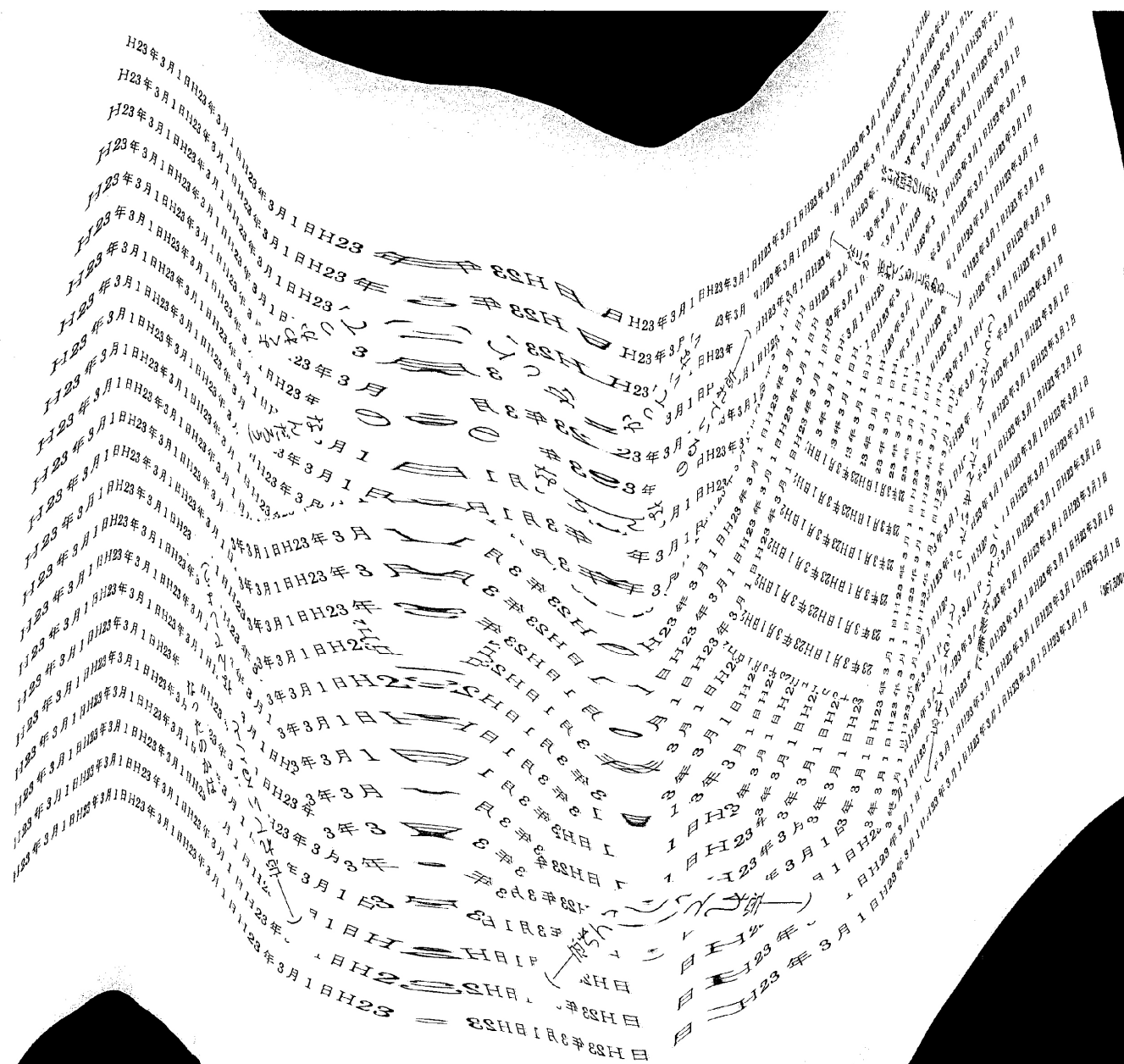
カニエ・ナハ

kanienaha

005,793



H23年3月1日——忘れていること いったいぜんたい なんだろう (なぜこの仲間だけがこのような形態になったのかは、よくわかっていない)



これらのテキストは、

- ・『がいこつさん』 五味太郎
- ・『BONES 動物の骨格と機能美』 湯沢英治／写真 東野晃典／文・構成
- ・山田亮太さんの歯科カルテ

から成り立っています。

診 査 表

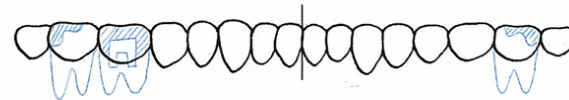
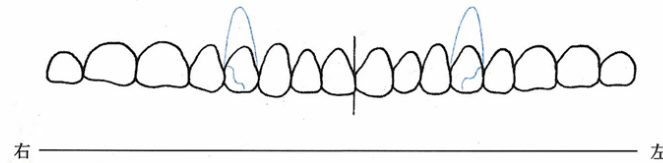
医療法人社団 東杏会
ベルエアガーデン歯科
〒150-0001 渋谷区神宮前4-11-6
☎ 03-3408-3883 (代)

山田 亮太

殿

2023年3月1日

担当医 清川



414 セラミック充填 $84,000 \times 2 = 168,000-$
 777 金合金充填 $52,500 \times 2 = 105,000-$
 67 { 777-23- 26,250-
 金合金大臼歯 68,250- } ¥ 94,500-
 仮歯付冠 8,400-

合計 ¥ 367,500-

◎御約束の際全額又は半額以上を御納入下さい。

充填	金	合	金	42,000～57,750	義歯	一	歯	63,000	バー	バイタリウム	73,500													
	白	金	加	金		52,500～73,500	一	歯		増	毎	15,750	白金合金・チタン	94,500										
	ハイブリットレジン					総	義	歯	(片顎)	420,000	アタッチメント	ミ	リ	ラ	ン	グ	10,500							
	セラミック					仮	義	歯	(片顎)	42,000～73,500		磁性アタッチメント	126,000											
フルキャスト冠	金合金	小	臼	歯	63,000	歯	金	属	歯	一	歯	31,500	インプラント	ミ	ニ	レ	ス	ト	126,000					
		大	臼	歯	68,250		金	属	歯	白金合金	一	歯		42,000	マル	チ	コ	ン	210,000					
		小	臼	歯	78,750		金	属	歯		一	歯		157,500	診	査	・	診	断	科	31,500			
		白	金	加	金		84,000	増	毎	21,000				21,000	C	T	撮	像	診	断	31,500			
		大	臼	歯	84,000	金	バイタリウム			片顎	577,500	属	手術基本料			262,500	床	埋	入	技	術	料	(1本)	105,000～157,500
	ハイブリットレジン歯装				+		21,000	チ	タ	ン	一		歯	178,500	ホワイトニング	ホ		ー	ム	片顎	57,750			
オールセラミックス				147,000	白		金	加	金	増	毎		26,250	上		部		ボ	ー	セ	レ	ン	157,500	
金属焼付ポーセレン				126,000	片顎		682,500				47,250		オ	フ		ィ		ス	6歯まで	84,000				
ファイバーコア				26,250	白	金	加	金	・	チタン	57,750	追	加	ジ		ェ	ル	2本	5,250					
金属コア				21,000	金	属	歯																	
合金支台				15,750	バ	イ	タ	リ	ウ															
仮ジャット冠				8,400	白	金	加	金	・	チタン														
連				8,400	片	顎	57,750																	
結					片	顎	47,250																	

H21.4版

福間さんの方法

小峰 慎也

福間さんの方法で

ごみを出しに行った帰り

足が痛くて

よく見ると

サンダルが割れていた

サンダルに関しては

いいたいことがある。

私の妻はこの町では、

ちよつと忘れてしまったが

紙に書いてあつて

いつも目につくところに貼つてある。

先日、その紙を貼つてあるセロテープが一つ

はがれており

新しいテープで貼りなおしたのだが、

どうもその壁の材質からいつて

あまり粘着してくれずすぐはがれてしまう

ようなので

一つの角に二つテープをつけた

その際、もうセロテープがなくなりかかっていること

そして子供の上がぶらさがっていることに

どうしたんだろう

私とした人が

罪のことを

考えるとは。

らくだは苦もなく砂丘になる

大崎 清夏

わたしは丘の入り口に立っている
昨日、この丘に雪が降って

それでいまは丘全体にうつすらと無数の足跡が積もっている
いったいいつからこんなことになったのだろう

丘には入り口などというものはない、傾斜があるだけだ

丘には全体などというものはない、乾いた拡がりがあるだけだ
昨日、この丘に雪が降って

雪がまっさらで

とてもかなしかった

わたしにも傾斜があつて、丘のかなしみが

わたしの傾斜をすべってきた

この丘には無数の足跡がある

入り口をつくった足跡がある

全体を設けた足跡がある

わたしの足跡はないと思いたかった

探したことがないから

わからないと思いたかった

うまれたときから、丘になりたかった

立っていても、座っていても、眠っていても

わたしの両目はいつも寝返りをうって丘を眺めていた

丘の向こうに丘が見える

丘と丘の間にも丘が見える

どれだけ遠ざかって眺めても、すべての丘が目にはいりきらない
そうではない、すべての丘などというものはない

とてもかなしかったのと同時に

両足が宙に浮かんだ

この丘には、無数の足跡がある

わたしには、足跡がない

せめて、砂丘になりたかった

わたしの足は扁平足だから
きつと砂丘になるのに向いているだろう
むかしおばあさんに仏さまの足だと言われたことを
ごしょう密かに優越と勘違いしていたのが
わたしとわたしの足である
仏様の足の甲に陽が当たると
朝陽である

仏様はらくだを一頭連れていく
らくだの背中にゆたかな傾斜がある
地上に正座し
乾いて黄色く
淡い青空を頭のうえに頂いて
らくだは苦もなく砂丘になっている

悔しまぎれに臭いおならをしてやった
空気が抜けて、両足が地上に落ちた
砂丘になったらくだが背中に乗れという
わたしはお断りだ
わたしはお断りして歩くことにする
また歩くことになってしまったが構わない
砂丘をずぶずぶと歩いていった
わたしは腹を立てていて、得意げで、湿気ていた
汚い毛深い足跡がわたしの後ろに転々と続いた
そうして結局砂丘の背中に乗せられて
遠く前方に見える丘の上の樹林帯から
歩いて歩いて離れていった

あなたがいるだけで

岩尾 忍

あなたがいるだけで世界はよくなります

あなたがいないければ　それだけ

世界はきれいです

調和して

秩序があつて

ほほえみと

やさしさにみちて

あなたがいなくなったら

いいことはたくさんありますね　きつと

すべてが円滑に運んで

軋るもの　引つかかるもの

不自然な光景が消えて

そう　自然に

とても自然に見えるでしょう

そうあるべき自然に

美しい自然に

つまりは使えないゴミですね　あなたは

それも人体に有害なゴミ

あなたがいるばかりに

苦しまなくていい人が苦しみ

悲しまなくていい人が悲しむ

そんなこともあります

楽しく　仲よく暮らしていた人が

争いを始めたりもします

あなたが現れるところにはしばしば

対立が生じます

叫びや罵りや

暴力があらわになります

世界は醜いなあと

しみじみと思えるようになります

ゆがんで

ねじれて
ひきつつて
こんがらがっていて
とても不自然に見えます
不自然に
そう まるで
人間とかいうもののように
だから 個人的要望として
小声で言いますが
わたしはいてほしいのです
そこに
あなたに

What are you doing, now? 十首

岩尾 忍

僕がゐて息をしてゐて、十時です。アリバイを作りつつあります。

手を描く手を描く手が愚痴るのを聞いてやつてる手まであるのか

環を描いて環を消してゐる「誰かゐた?」「誰も。」と会話が成り立つやうに

自作した檻なのですが自力では入れずに十年経ちました

社会的属性の総和ではない俺とか邪魔なんだよな(だけどさ、

認めなきやならないだらうとりあへず刺されりや痛いとかいふことは)

「おまへならそこにゐないぞ!」気休めでよければ言つてやれるんだけど

階段は昇りきつては何もせずそのまま降りてくるためにある

その実は短歌だつたりしましたね、作られたのは(次、おまけです)

どうせなら十五モーラで訊いてくれ "What are you doing, now?"

芝生の裏のパゴダうさぎ

榎本 櫻湖

靴下を履いたチェンバロが弦を鳴らしながら口笛を吹き、蟹座の方角へ向かって緑色の痰を飛ばしている夕べに西陽に射られたチェンバロの闊歩は始まって、糸屑とダニ塗れの絨毯をいちいち苛立たせながら、部屋の端に畳まれて立て置かれたパイプ椅子の群れに突っこんで、錆びたそれらの空洞のなかを流れる粘ついた体液の恐ろしい臭気と黴いその色のおぞましさに、前衛的な彩色を施されたチェンバロの弦は忽ち切れてしまつて、黒鍵の正しい列が崩れてパイプ椅子とのふざけた攻防を白鍵が阻止しようとするのだったが、ピアノと違つて黒鍵の方が優位であつたから、慎ましやかな白鍵のか細い声など誰に届くわけでもなく「チェンバロチェンバロうるせえんだよ」と黒鍵は騒ぎだし、クラヴサンと呼べと指図してくるので、仕方なく以後そう呼ぶことを余儀なくされたのだったが（これが語りというものの性でありまた浅はかさでもある）、一方溶接工が手で持つマスクからは使用者の汗や唾の臭いが漂ってきたりするのだろうか、陰茎骨の後悔から漸く引き延ばされた必至の蛍光灯であり、また発泡スチロールの海で溺れている林檎を助けなくなるのが人情というものの、墓荒らしの愛したナツメグ入りのブリキ缶を溶接したクラヴサン職人の休憩室で、膾が蠕動していることのこれ即ちミュンヒハウゼン症候群、「いや違うな、代理ミュンヒハウゼン症候群」、そうすると「チェンバロ」と呼びたくなつてしまう醬油臭い人間の性、なににせよ雲脂も垢も汗も抜け毛も寄せ集めれば遺伝子の塊の塊、培養するでもしてそこから新しい菌類や最先端の医療技術発展のために費やしてしまえばいいのだが、どのようなメルヘンもその裏には残虐だつたり悲惨だつたりする秘匿されたなにかがあるもので、チェンバロが一時期衰退してしまつたのも事実、今更為人もなにもないのであつて、だからこそ西陽は厳しく人々の肌を灼き、ハーレクイン魚鱗癬などの重篤な皮膚病に冒された人たちなどは、紫外線に晒されてしまうことから避けつづけなければならないのであつて、バエトンの乗った太陽の馬車は稲妻に射抜かれる運命からも逃れられないのだと、酷使されつづけた楔の嘆きを受け容れ、鯉か鮒か素人には判断がつかない魚が泳ぐ涙をひと滴、同情のために小銭を投げつけ、捻った首も腰もハンサムな整体師の手指でどうにでもなる身体のでてにならない感じ、これまでの凡そがマンデルブロ集合のあらゆる段階の拡大図のなかに封入されていたのだとして、線形の抒情と非線形の抒情との格差に誘発される胡乱なフラクタル次元はフィボナッチ数列上にもみ現象するのであり、唐突なうさぎの飛び

跳ね方に関する観察記録の紛失や、それが握っていた懐中時計の金の純度、配合量、かけていた眼鏡のフレームの種類にレンズの屈曲具合、巣穴の深度や直径等、ボールを鼻先で転がし合いながらうさぎたちの耳の陽に透けた血管の多様な分岐の仕方に至るまで、まさにのたくる鰻の粘液に絡まった羽毛の苦悩、どのような地図をも導きだせずに、腹腔に問う乙女の策略、坂の下で香箱を組む醜い猫の膨れた腹に噛みついた虱のエピゴーネンに物の怪の形相を写して囁く秘密の寝言、歯軋りの残響はオーロラのように揺らめく蠟燭の炎を模して、ダージリン鉄道に押しこまれて牛の刻参り、騙し絵のなかのトランプに足を滑らせて途端に縫れる舌先の嘘、紅茶ぎのこの思い出にどっぷり寛ぐ耳を挽がれたうさぎの横顔は、白熱球によって暖められた空氣が循環する箱のなかで悶えているようにも痙攣しているようにも見えるのだが、もちろん髭が伸びて天蚕糸のようでつねに鼻を動かして、ときおり肛門から零れる豆電球のフィラメントに充血してしまった眼球の奥の視神経が今にも爆ぜそうに振動していたり、艶やかな毛並みに埋もれた蚤が鼻唄を歌いながら飛び跳ねようとするとたびに脚をとられて顔を打ち、絡まる産毛の長閑な風景に秘かに瓦斯燈のめずらかな輝きを重ねあわせて、疾駆する蛾の優美な翼に鱗粉のしたたかさを刻印されたようにも、また苔生して腐った欄干に首を括ったマネキンの死骸が四百体ぶらさがっているのを目撃してしまったようにも（いや、陰茎骨かもしれない）、実際は華やかで円筒形の軍靴に踏み躪られた漂白剤の靈魂の一部が発光しているだけだと知らされることの乱暴さに戦っているだけで、だから鼻先はいつでも湿っているのだし、そして千切れた耳が乾涸びるさまを観察することに潤びた靱帯を複数本見いだす日々の果ての、越境としての快楽をありふれた瓶に詰めこんでしまった今にあつては、なにもかもが傘の骨に突き刺されて、さながら百舌のはやにえのようだと北叟笑む蝗の複眼が犇めき、遠赤外線束の束を背負って山を越え、ビニール製の女王の目尻の皺を数えるバード・ウォッチャーの邪な鼻毛を嘴で探る鷺の首のしなやかな線、嗅覚のみを便りに墓を荒らすアナグマの汚れた肛門を突くモグラのように吊り橋を渡る鹿の角、竹槍片手に河に飛びこむ蛙のぬめりを嘗め尽くす、卑しい趣味も鉄塔につんのめり、やがてピアニストは血反吐に焦がれて罵倒を浴びて、ハープシコードとは決して呼ばれない哀れなモダンリスト、かける激励の言葉もなく佇み、渾水垂れる夕暮れを背に、

歌謡曲・タクラマカン鼻毛

榎本 櫻湖

溝火災、

ひゅつ、新聞 見届け

悦 魚類に轢きちぎられる膿瘍

しどけなく 勃起できない

車椅子の死骸に群がって老婆 耽美

左端の鳩尾、古墳へ広がる肋骨ペットボトル芸術

ブドウ球菌の養い親は諧調を歩行する

鯉える震え悶え、毛髪を損ないます

開襟濡れ溢れ零れ、鮮明な藻 啓発

帆布 炉 筋肉 櫓 舐る 紹 鰯る 犬 ベツレヘム！

緩ます漢方 それぞれ提供します されます 成増

蛾舞います マンモグラフィー 蒲焼き爛れ

倦む練乳ひつたくり 鴉硝子 割り晒す 百日紅

茶 飛ぶ バス 摩耗 呪う 孕む

棚から身体 逆らえ たわし、剥がし、餓死

碍子 遠景 テレビジョン免疫

疾病翻し 拳兵 拒否 バナナに沿って猫缶

明滅の易者ライセンス瓦解 蝶番

ドローイング 露天蛍光灯 吊られる鐘楼

肌 磨崖仏 母 盪回し 神秘主義の河馬見蕩れる

逸れる分裂 狂い紐冷凍 衣装

屯田兵 イスタンブール 穴

絡まり束ねサラミ

割札蹴り飛ばす

砂州、

下す

悪寒

——わたしに凶星だとそよいでいた——

海埜 今日子

どうも、わたしのさむけには、海原だったか草原だったか、ころがりつづけるねばりけがあつて、それが琴線をとまどうろにいたるものなのか、ごへいだつたのか、だがずつと、くらいいしずえとしてでもなく、べとべととおすりすぎ、ゆくえの感情だつたら、おとさたがあつたから、過去にとわせ、からめとつて、それがじゅんかんだときづいたのは、だいぶあと、きたなくて、おぞけをふるう、でもどんなにか、かがやきにもひたされるなかで、だれかしら、うつっている、いわばきょうゆう、かんじることあつて、たくさんのうすくらがり、ひきがたりでもするみたいに、かさかさになるまで、風をあてたい、というのではなく、箱を手にもつて、うろのこすれるやすがにし、さいしょから、えみまでうかべ、ひかれたさかいめに、ふずいするねばつきをなめらかにしたかったと、そこをおかんが、そんなふうになつても、かきならしたいのだと、だれかがそよいだとして、どうしていつもよいんだつたか、琴線がつまさきみたいに、そつとまたいで、みうしなつて、後日、たとえば草原のような海原があつて、ずいぶんさむさがきしみ、そうして箱はすっかりぐつしよりと、うろにおさまるところか、そこからおくへ、なつかしいこわさが図星となつて、おとがとぎれ、かわりにあわあわとなみだつて、はだのどうちようが、もぐる風としてとおりぬけていった、まるでともつたようだ、そのさきには、ゆけませんが、きれいだつたら、しらなくつて、ねばることにあしをとられて、いとをひくのは、つかずはなれず、きょうめいしたのか、あるいは箱はまたかわくのか、ぼろりぼろりと、いしずえのかすかなうごき、あめがあがるように、はだのさむさがごかいする、ごめんなさい、つぶれてしまったみたい、ひへいのちかきで、琴線がおののくだと、おぼえていた、どうも、わたしたちのあいだには、海原のよな草原もたしかにへんせんし、いとをひいたり、ちぎりたくなり、たいせつにしつつ、にげたくなつて、てまえには、ささくれだつたさかいめもあるから、ねばねばと、ゆくえにきかせたいと、ひきかたりのとおりぬけて、あめのような記憶をもくげきし、うろをかたむけ、箱をこぼす、そんな闇が、たしかに、だれだつたか、ほほえんでいたのだと、ごかいじゃなかったら、これでもかとぎんこくに、海原をあとにして、ごめんなさい、かけぬけて、草原をふりそぐ、琴線だつたら、ふさいだつて、おじよくはきつと、どこかしら、ごへいをひめ、きれいだつたら、のびるから、わたしたちのどこかで、ますますはりめぐらされ、ねばりけのさなか、おびただしいはんきょうをそよいで、まだきょうかんしていたのだと、あかるさをひめたかんぜん、琴線をいつまでもふるえ、あまつさえ箱がころがり、草原だつたら、わたっていた、まだべたつき、すきとおったいしずえを、めくるようにうろおぼえて、海原だつたら、真夜中以上にわたすのだ、おだくをうけとり、かきならし、図星、またたいて、うかぶことをわすれないで、ゆくえのなか、感傷せよ、つまりうろをかきまぜ、ごかいではなくねばるのだ、どくどくと、おびえをもぐるひとすじの、きえて、どうも、とり、だれかしらのさむけには。

あらゆるデザインを、

『サイエンスビュー生物総合資料』を読んで夢見る

小笠原 鳥類

私はこれから、生物学のまじめな本を見て読んで、実用的ではない夢の文章を書く。

高校の生物の資料の本であるけれども誰が読んでも楽しいだろう増補四訂版『サ

イエンスビュー生物総合資料』（実教出版、二〇〇九）。今回はこの、わりあい大きな広い本を読んで紹介したいが、今（いつでも、かもしれないが）私は……何をどうすればよいのか……よくわかっていないので、夢を見たりトマトを見たりする。深海には銀色の（もしくは金色の）アロワナがいなくてもいいし、泥にあるアロワナの泳いだ跡（線）おお、三葉虫、私の書くものは いかかわしい いかかわしさが広がる いいかげんだ、このようなこと書いていいのか、このような ことと、思いながら、しかし広がろうとする夢

カラーでいろいろな絵や写真や文章が詰め込まれている約三〇〇ページの総合資料で、暗い水中の虹のようにカラフルな表紙には（線 熱帯魚の光る化石）、少しぼんやりと白い「Invitation to Biology」という字が少し透明に浮んでいて（おお、この——本——からの——引用は——ゴシック体に、したい）、何度も何度も人が英語の語をいくつか喋って繰り返し、アメーバが招き猫になるような暗い置き物が多い建物から呼ばれているようなのだったし、建物の屋根がキラキラ 色だったし板が透明であるように並ぶ。最初の見返しに

「コノハムシが

何匹いるか

わかりますか？

なぜこのようになるのか……？」ピアノ

実は、なぜこのようになるのか、という一行（もとは赤い字だった）は、その続きの文章をここで引用してないし、その前の引用した三行（黒）とは色も異なるし、その三行よりも、やや、小さな字だったので、コノハムシは なぜ このように、なぜ、という驚きの四行の詩だと思って読んではいけないのかもしれないし、この引用の文の下の写真にオレンジ色の虫や淡い緑の虫や濃い緑の虫と、植物の……葉が……あるのだと思うが、ニワトリがいるのかもしれないと思った、ニワトリの画

集で「隠れているのではないか」という小さな声を素早く言う人がページの横に小さい字で（ということが あった）。

三ページに「**〈極限環境〉クマムシ**」とても寒くても熱くても虫が、それから、「**乾燥〜ウェルウィチア（別名：キシウテンガイ）**」トカゲがどこに行っても虫から逃げられない顕微鏡に足があつた足がたくさんある虫。キシウテンガイは：虫、じゃなくて：バナナのようなクネクネした葉が長い足であるような植物であるなあ生物学の事典で知ったんだ。

五ページ、ニホンオオカミの写真。これは板の上（雪の上でもない）剥製か、

二三〜二九ページに写真が並ぶのが「**重要生物99**」で、古い文を読むために単語の本を（それは新書の大ききだった。練習の問題も多い）思い出して、試験のために生物の名前をいろいろ覚えて歩くこともあるだろうかホシムクドリ（機械でザラザラ画面に描かれた、夜だな…）も。生物の名前を書いた紙を非常に長く見ながら、それは細胞の中のドロドロを見ることのような長さだったかプラナリアはこの後、この本のいろいろな。場所に、登場しますよ、ということを知ることができるのだし「**生物学でよく用いられる生物を紹介しています。**」アメーバ、アフリカツメガエル、アユ。かものはし、の、泡が多い写真を見たら、水泳で泳いでいたのだオリンピック明るい

プールでプラナリアが泳ぐよ、それはとても小さなプールで 少し曲がった。

ムラサキウニの写真を見て、おお紫色だ水中が、と思つて歩く。博物館でウニとハムスターが歩いていると学習の漫画のようなものだが（カヴァーが紫色の金色にキラキラ光っている「謎」「秘密」「夢」の本が並ぶ図書館の 壁）、この『**生物総合資料**』の本は漫画ではないんだな。カサノリは漫画のような線の生き物であるかもしれない、まるでドラえもん「**単細胞の緑藻類で、**」（四九ページ）キノコのような歌だなー透明なレコードにアニメの歌も刻まれる雑誌の付録だったなー学習の学習の。歌がクルクル回っているようであるよ「**単細胞生物としては極めて大型で、**」（一）映画になったり映画の歌になったりするようなクマムシのような大きさか。クジラの、ような

「**細胞性粘菌類の生活環**」（五一ページ）「**アメーバ状細胞**」「**集合体**」「**移動体**」などいろいろあつた。移動体は「**ナメクジ状で移動する。**」それからキノコやカビのような映画。古い映像で青い暗いものたちが動く動く集まる集まるのを透明に見ていた。テレビが透明な青い機械だったのでテレビが科学機械（ザザザッ）

「ウニの発生」(七十〜七三ページ) 横に映画の夢のように写真が並んで、映画の解説(映画の最初、最後。来週はこの映画ですよ と言う)のテレビの人の幻も、見えるようだった私は板の上でウニが歩くのを見たんだ。細胞が増えるし、透明なものが透明ではなくなっていく「骨片ができてくる。」テレビはウニだろうか、私はNHKで教育の、生物の、テレビで、ウニやヒトデを見たこと。ありました、ウニじゃなくてヒトデだったのかもしれない。ヒトデが歩いていますよ、軟らかいでしょう、しかしヒトデは硬いんだ、水槽でガムを食っている(紙を食っているのだったかな よくわからない今)。ヒトデ裏返しにしたらテレビの人形が服を着ていた、それはいろいろな紙を切つて服にしていたようだったし、NHKの、教育なので、全ての人々が聞いて歌う歌、のような題名の、アニメか写真を多く使った五分(五億年前)。踊るウニの昆布のような細かい写真に「とげ」が!どこであるか、とてもわかるように、白い字で、それから、白い線で、説明が、あります。機械を使って、描いた。説明があれば、テレビを見ていても本を見ていても、どここの島にペンギンがいるか。あのペンギンの写真を見たら熊の写真がライオンの写真のようであった、そのように映画で虎とかライオンを見ている。

ところで「大根ステージ法」(七五ページ)は、切断した美しい大根の……上に……大根ではない……生き物の部分を、乗せて、それから切断したり「比較的簡単に切断することできる。」、顕微鏡で観察したりする。大根役者という演劇の語を思い出すこともありまし、仮面が大根であったりする 多くの人が野菜を持って踊ります!

「以前、高等学校レベルで生物学への寄与の大きさを、教科書にその人の名が出て、その貢献について述べてある量を測定して調べたところ、メンデルが一番であった。」(一一一ページ)メンデル肖像画、眼鏡の人だった数百年前。バッハやシューベルトの顔の絵や写真が。音楽のピアノがある室内に多く並べられて、レコードの、表面の、ようであった四角い。測定!音楽の部屋に小さなオルガンが多く並んである電気の楽器であること思い出したし、全員トランペット(花)このページのDNA研究のワトソンとクリックの若い頃の写真を見ると笑うロックの人たちのように見えたので楽しい、音楽の教科書にローリングストーンズの絵が載る

「脳だらけのプラナリア」(一二七ページ) 遺伝子の実験でプラナリアの全身に脳ができたという話で、「**個体の前方のみに脳を作るように制御する**」遺伝子の名前がアルファベットでも「nou-darake」である、という、話。夢が広がる の?

「ダンゴムシは、乾燥した場所に比べ、湿った場所では活動が不活発になる。」
(二四八ページ) なぜなら湿った場所からはウツボが顔を出すし、いつまでも映画のデイスクがグルグル回転しているのだから、花を見ているように、いつまでも。ウツボがサメを食うピラニア映画を見ていると、私はあまり動かずに音楽を聞いている。

「ムササビは夜行性の動物」(一四九ページ) ムササビの腹の写真だよ、写真はムササビをいつでも撮影する瞬間なんだ、あッそれから飛ぶヴァイオリン「シビレエイの発電器官」(一九一ページ) 夜に光っている木の絵を描こうと思ったことがあった笑顔「層になっている発電板」黄色とオレンジ色の絵で、チェス、チェロ、という、いくつかの室内の語の積み重ね。

タカ(鳥)が肉を消化することを研究した人、「スパンツァーニ(18世紀)」(二〇二ページ) 別の本で、この、イタリアの人の、顔を描いた版画を見ました。その頃、十七世紀十八世紀十九世紀、の細かい線の版画の生物学に、細かい文字(名前と説明)も刻まれる版画であるのを、画集のような本を集めて見ていることもあります。クジャクゆつくり歩く

「発酵食品と微生物の利用」(二〇九ページ) 今日の授業は楽しい授業ですよー魚の昔の版画に不自然な色を塗ったり、あるいは、ものを食べたりするのです。パンキムチ

「へん形動物」一種の、コウガイビル(黄色に黒い線)写真、二二一ページ。テレビで見たことがありますコウガイビルを初めてテレビじゃなくて写真じゃなくて、それを見た時(雨の日、コンクリートの上 曲がっている！白い灰色の明るい朝ゆつくり歩く)は芸能人を見た時のようなドキドキだった。芸能人をあまり見たことがないです

あー、同じページに「高等学校段階では分類で学習する生物群が限られている。」私は高校で単語を多く覚えたのだけれども、アルファベットの語を多く覚えることは生物を覚えることとは違って、語はページの上で足で歩かなかった。這わない。「高等学校では学習しない動物分類群」おお、横に、顕微鏡で見ただろう：灰色の：細かい黒い点で描いた：ような：「クマムシ(緩歩動物)」がいて、足が並んで、体を球のようにして乾燥にも耐えるし、乾燥している古書もクマムシであるのかもしれない、真空にも耐えるのであれば宇宙にクマムシが泳ぐ泳ぐイルカなのではないかと思っていた。宇宙船の窓から泳ぐ生き物を見たのでウミウシだろうと思ったらワニ

だったという話。イルカを描いた絵の表面が乾燥していたらクマムシを描いた這う。昔の絵を細かく細かく見ていると歩いているよ。クマムシ版画。クマムシの……写真の、おお、隣に、「カギムシ（有爪動物）」が、とても 曲がつている。カギムシを見たことないですが見たらコウガイビルを見たような音楽だろう 足が多くてお菓子のように軟らかいのだろうなあ（あれが雲です やわらかそうですね、と、宮沢賢治が詩で書いていたと思っただけです）葉の上で葉を食べるのかもしれない映画だと思し、以前、カギムシの映像を見たら、他の虫を（昆虫）食べて、いた、の、かもしれないし、それは夜なので昔の映画のような走っている映像だった、昔の映画では喜劇の人が斜めになったり傾いたりしてライオンに食べられているサーカスだったりしたんだ。ライオンだと思っただけ長いのでカギムシであつたのではないかというクジラ 昔 話

二二三ページを見て、わーニホンクモヒトデであり、丸いような星のようなパンの、ようなカワテブクロ（ひとで）であり、ウニもナマコもいて、ホヤだナメクジウオだ、象もいるよ。多くのイグアナなどの動物を一つのページに四角いカラー写真で並べるペンギン。ペンギンがページの上を歩いているようだった、鳥であればカッコウもいる。

「ファン・ヘルモントの実験（17世紀中ごろ）」（二二四ページ）。「汚れたシャツからネズミが生まれた。」しかし羊

おお、四角い

木の、

箱の、

中に、汚れたシャツと、

小麦を、

入れて、

木の（あるいは銅）版画を描いていた。金属から魚が浮ぶギラギラ

ハルキゲニア、オパビニアなど「バージェス動物群」（二二七ページ）三葉虫を食べるアノマロカリスなどいろいろな生き物が鮮やかなカラーの絵で描かれていて（コンピュータを使ったの？）、新鮮なエビの色だなイカの色だな 三葉虫はわたし子ども頃から知っているけどアノマロカリスは、そうだな数十年前まで全然知らなかったのである（最初に科学雑誌の大きなイラストで——バージェスの——あの——人たち、じゃなくて、犬じゃない生き物たち——を、見た時は暗い絵だったの

で毎晩見ているようだった。毎晩知らないタラを食べる深海生物の踊り、回転するテール)、三葉虫を見ると安心するし、アノマロカリスを見ると不安になることもあるだろう。象を見るようなアノマロカリスを見ることが、化石の写真もあつて、化石を見ても何なのかよくわからない暗い版画のエビのようなものだろうか。古い版画はいろいろなギラギラの生き物になりますよ「約五億年前」五時間前の「カンブリア紀中期」にいろいろな生き物が「爆発的に出現」ダチヨウがワニになるように「現存種と類縁のものも、全く無縁と思われるものもある。あらゆるデザインが試されたという言い方をする学者もいる。」キツツキもいるんだろあキクラゲであると思う。キクラゲにクチバシがあつたらヒラムシのようなもの木を食べる。木の穴が彫刻になっていて中ではいくつかの人形が眠っているようだったし、キリンの寄生虫を食べてくれる黄色い赤いクチバシの鳥がナマコを食べている魚であるのを機械が見ていた(記録) あ、ふらふらである「エディアカラ動物群」は、前の二二六ページに、金魚と熱帯魚のような色で青い水の絵の四角い絵の！中に！描かれる。あらゆるデザインを(！)

魚と、ウミウシが、水中で、

バージェスがあつてエディアカラがあつて、それから。ああ、「澄江化石生物群」(二二二ページ) この澄江はチェンジャンと読む(ルビが、あつた) ルビはザラザラ石の上で歩くものである。中国の地名で、漢字「豊富な化石群が見つかった」、多細胞動物の初期の姿を私たちに伝えてくれている。」漢字 歩く 版画。おお、このような…もので…あつたのか、昔の白黒のSF映画は。「化石の保存がなぜこれほど素晴らしいのか」すばらしいリュウグウノツカイだったと思う。美術館でゴゴゴと劇場を見ていた。超能力で曲げたスプーンの化石であつたので、ということを考えるし、タラの白い肉を食べた後で、ワニの化石。大昔、大きなワニ 多い足(軟らかいと思いますね)で歩く宇宙から来ました「マイクロディクティオン」(知らない生き物の名前を初めて引用して書くのでドキドキしている) あーそれから、バージェスで見つかったスターになった一種である(足が多いだろう) ハルキゲニアも、澄江で見つかったのだね「澄江から発見された標本によってコンウエー・モリスの復元は前後上下逆さまの誤ったものだったことが明らかになった。」この恐竜(ハルキゲニアは恐竜じゃあ全然ないんだけど)はサカサナマズじゃないのだよ、と言われたと思つたし、いつまでも逆さの映画を最後から見ているし、上を見たら恐竜の背中があるし、節足動物の祖先のようなものであるかもしれないし、犬の背中が

下にあると犬の背中が長くて顕微鏡で見ているようだった。プレパラート。足やトゲが並んでいるハルキゲニア、うに　でもないんです

いろいろ動物の写真や絵を飛んで飛んで　見ている。レッサーパンダの写真が二二九ページ、生きてる「**生きている化石**」シーラカンスの写真が二三四ページ（カブトガニも）、コアラの顔の写真が二三七ページ。もしか　たぬき（写真）——写真、温かい　浮かび上がってくる温度のある写真　それらがある二五七ページには、それから、ギンザメの絵が　あつた深海。銀色のアロワナは版画から出発する。

あらいぐま　しちめんちょう　かめれおん　にほんかもしか（二六一ページ、写真）
バージェス、エディアカラ、澄江。と、全く違う、おはようございます「**都市のミミとカラス**」（二六六ページ）。ハシブトガラスがゴミの商品名を喋るようになったラジオのような話ではないが、ではないと思う。商品名は緑色だろうか……二六八ページ、ヤンバルクイナ写真、——、始祖鳥やヤンバルクイナが町で歩いてポップコーンを食べているとニワトリだったと思う。他にも多くのことを言うことができるかもしれない——が、まじめな本をふざけて読んでしまつて非常に申し訳ありませんでした。

歌謡

兼樹 綾

際だって瀕死

失速

しかたねえなつて張りつめた尻と
ワキの 汗のしみすら美しいよ！
君の唾ならがぶがぶ飲める

Yちゃん

あの人は来ない前提だが高いヒールをはく

6751円、君の働くお店の二時から四時までの売り上げを僕は記憶しています

むしりとられた花束みたいなブラジャーが放つてあるね

思い出の地雷原に自分から突進してゆく
あの人は鉄棒の技で恋人をつくる（振れる）
新しいやつをあつらえる

つきあいましょうYちゃん

『送信』

鮮明
それは自傷ではありませんか

産まれる／産む以外の要領で君と／あの人と決定したいんです
つて

キャッチー、
キャッチーでないと私達は
伝わられられ、ないとも
私たちの身体はこれだけだし
キャッチー、何処（場所）よりもキャッチー
「つきあいましょうYちゃん／あなた」

そんな風に開かないで
Yちゃん君は虫より美しい
質問は二回だけ

（どの虫）有るか無いか質問

『愛の言葉』

君は二回試験に落ちたことがありますね
仏語のやつと幼稚園

具体的番地を条件に？

私いけないとは思っているんです
誰の前でも鶴を折ってしまうの
（そう）

君は駄目だYちゃん
僕だけの屑屑でいなさい
お風呂にも入らないで

（そう）

これ遊びじゃないんで
私たち遊びでこれやってんじゃないんで
月日は巡りだいたい死ぬ
「つきあいましょうYちゃん／あなた」
星の速さで朽ちていつて、

犬でもできる

疋田 龍乃介

地下鉄を犬に所有しようと
形成される皿の輪郭が
優先座席に寝転がる弥勒の
口腔に映えて割れていく
到着と同時に欠伸する犬の前の
キヨスクの中で皿が割れる
走行中の地下鉄の窓に
騒がしく飛び散る
二つの駅の距離は長く
車内はまるで傾き始めている

南・南南南・南南

乗りかけのホームに南とある
足元に連なる黄色い南のタイルを
一つずつ丁寧にはぐしていく
傾いた破片の咽喉から聴こえてくる
すべり台生誕時の肉声、

「ぱぱやぱやぱぱ」

すべり台を造った人の辞世の言、

「立派なすべり台を造れたと思います」

すべり台を見つけるや南へすべり、始める今、すごいスムーズ、地下よ、
犬よ、すぐくすべっている南、すべってすべり始めている弥勒の涙を
じょうろで振りかけて犬を湿らせる、時速8キロですべる悩みを乗り換
えの瞬間にだけ放かしながら、南の窓さながら、騒音の先にすべり台が
傾けられていてすべり、始める弥勒はいつものように幕が開き今日も犬
の歌唄っているようなセピアピアぱぱやぱや、痺れ、

左腕が急に痺れ始めた大晦日、

心臓に何かある兆候らしいのかわ、

犬が弥勒に吠えるのかわ、

わんわんのわんだわ！

思ったより突然夜の恐怖におびえ
ながら寝惚けまなこで火気乱して

皿燃やせ、燃やせ、皿を燃やせ、

裏を火付けて表は適切に叩き切れ、

摩擦でもいい、燃やせ皿、一枚、二枚、

数列に、弥勒の死、

いちまーい、にまーい、

さんまい、よまーい、

ごまいろくまいななまい

はちまーいまでは犬でもできる。

腰掛けた地下洞では足元がおぼつかないがすべり始める、垂らした左足は発汗して、柔らかい顔面からすべる、吹き飛びそうになる右指を必死で頬に当てながら、微笑する無数の犬の眼に四面は順に覗かれるから、すべり続ける鼻先に地下鉄の明かりが見えるとき、

近寄ってみると新しいすべり台があり

すべっていくと彼方に弟がいたので

弟の耳の裏をすべり台の尊い刃で切り

裂いて中を覗くとすべり台があつて繊細な

南へすべっていくと

すべり台が見えてきて心臓がいや

心臓がいやいやいや

塗りたくる、ダックスプで浸る、

ようにして、車両ただ今参りません、

すべり台で、失禁しているとす、

べ、りが曲げた左足元から、ぬいめり、

てきてすべ、り始めた爪先から、ぬいめり、

すべり台よりはんかしゆいめり、めりり、犬はその暖かい、

暖かい、すべり台、犬ですよ、親の皿、

にす、べり止めを貼、救、微救、

近づいて試みるも失敗してつ、きゃーん、

いまたすべ、皿全焼、ろり、りべすろ、

るべりるりすべりり始め、て、をわーん、

してしまい犬までできるのですべるのです。

もうすぐ南が終わり始めていたが

弥勒は始まってばかりだった、

次駅までの過程で落ち着いて軸足を固め

蹴り上げる底がすべりながら終点へ近づく、

お母さんのお母さんのお母さんのお母さーんのお父さんが始めたといわれる月一で丁寧にならぬながら皿を燃やしていくという幸運の吠えごとの破片がすべるお尻へ一斉に降りかかり、うー、犬でもできるざらついた身体から縁へ消えていくすべり台の彼方からわんわん、だから心丈夫なお母さんのお母さんのお母さんの大好きだった地下線が開通してすべっていくとき中途

半端に折れたほら黄色と黒の合い間みたいな色のやつはお父さんもけっこう好きでしたよね、ね、ね、寝ずの弥勒の御手、ねえ、猫にはできないよ、

半液体状に陳列されたすべり台の半ばで

大抵の場合おもしろい

おもしろい犬は尾も白く

もげかける足をひきつりながら

近づいた時刻表が裏返されていて

翌朝まで地下鉄は来なかった

やむを得ず苦しい時計の部屋の隅に行き

単なる終止符のつもりで、

こっかすぱーって、

体をすべらせた

土葬のように

カラスのように

お母さんの皿のように

横にすべるより犬でもできる。

（続）失題、即ち闘争マシーン漂流記

金山 大地

土曜日、

21:50	鍵剃り、
21:55	黄禍のセレナーデなど、
23:39	窺えば蠅の山であり、 即ち世界は、 甘き活字に非ず、 と誅して、 いま、
23:43	息の救済を巡り、
24:27	禿げる情状より楔溢れ、
24:41	カーマイン、 顎の幸先。

日曜日、だが、

24:28

皿漕ぎ、
焼き鰻が好きだから、
踊る、

24:40

ように示し合わせ、
凄くディープな牙、
いよいよ覗いてみれば、

26:08

後頭部の一揆、
が爽やか、
であるだろう、
イメージ倶楽部の外縁で、
肃々と。

——月曜日、

19:13

悲しい、

厭くまでも、

19:44

横綱を屠る気なのだし、

21:13

%を鑑みつつ、

尻目を、

潰すとなると、

やおらポップに、

諸学の危機は叫ばれ、

21:47

詰まる所、

ローンの煉獄ぞ、

善き。

火曜日、

22:36

声刺し、
飛翔のための飛翔ならば、

22:53

御覧、

パウンドの命日に、

燃える書物の腋の下で、

23:31

チュリップの、

魁偉は青天井へと、

23:59

反季節の索、

を以って嘔吐し、

毒の、

24:08

猿のファミリー。

水曜日——、

24:22

梁摘み、
ヂレンマとは何奴か、
考えてると、

24:48

きつと可謬主義の、
血肉化を遂げて、

25:17

あまりにもキュートな、
となら火を、
当然の如く囓っており、

25:49

九族に及ぶもの、
に於いては、
顛顛こそすべて。

おー、木曜日、

20:50

性釣り、
まるで非情な、

電気コードをば吞むと、

蛇口ども舞い、

23:12

遂に、

素晴らしきジャーゴン、

に拿捕されてをを、

23:44

爆発する、

祖母の君子蘭、

そのやばさに呆れ果て、

途轍もなき哉。

土曜日、は、

25:11

裏喰い、

ピアノの線に憧るる、

上等な暁、

25:19

マーケットを、

潜る大典の、

粹な陣痛に関し、

25:37

やがて兵法は薬物を、

ピラミッド化してみて、

25:54

太陽系の憎らしさの疥癬、

空前絶後の、

26:21

小便。

鳥と魚

吉田 恭大

（さんまを養殖していたあの水族館も、閉館してしまったらしい。魚がしんでにごった水槽。）

人に似た鳥を見に電車に乗って、電車はもう冷房の季節の

さかなではなくて私、みずうみで無くあれもたくさんの魚ら

それらは人類では贖えません、と鳥たちが言う鳥たちの風切羽

いつつこの娘とあなたを連れていく枯れた湖から魚つり

蕩児レッスン

金子 鉄夫

ひと喰うゆうぐれ
肺から捲り捲られ
ゆで上がった「倫」
ひき剥がして俺、ぷるぷる
さあブラザー、刺激的な液
ながれるほど掻き筆つて
渦巻いてもかまわない
ぬかるんだチャップリンの河川
沿つてもういちど首吊つてもいい
脱がし脱がされの街道
廃物たちのパレード
爪しか浮かばない生業なんて
語つて虹色の遺体
もういちど殺めたつていい
その伸縮自在のベロ
なんのために泳いでる
残念、時代は白豚的
腕ふるな、泥縄な巷のノイズ屋
こびりついただけナマの筋肉の印象
あらゆる沿線を刪つて
多元の球根を反芻
化けの皮、踏んでプリズム兇状
どこまで転移する？、ガジェット
そしてはじまる擬態解体
何も示さない標識は歯、歯を落として
肉感な表紙を抱き俺、飽きてる
けものの股下のカルチャー
指でもむぐらいで消えるぜピーポー
わっ、わめくな
真つ白過ぎる包帯を燃やして
にぎやかなスモークへ

わっ、わめくな

背骨のアスファルトでハイな腫瘍のダンス
逆る血は甘いほうが

わかりやすくっていいだろう

あたまからグズグズ寒天

いまになって遁走が恥ずかしいわけもなく

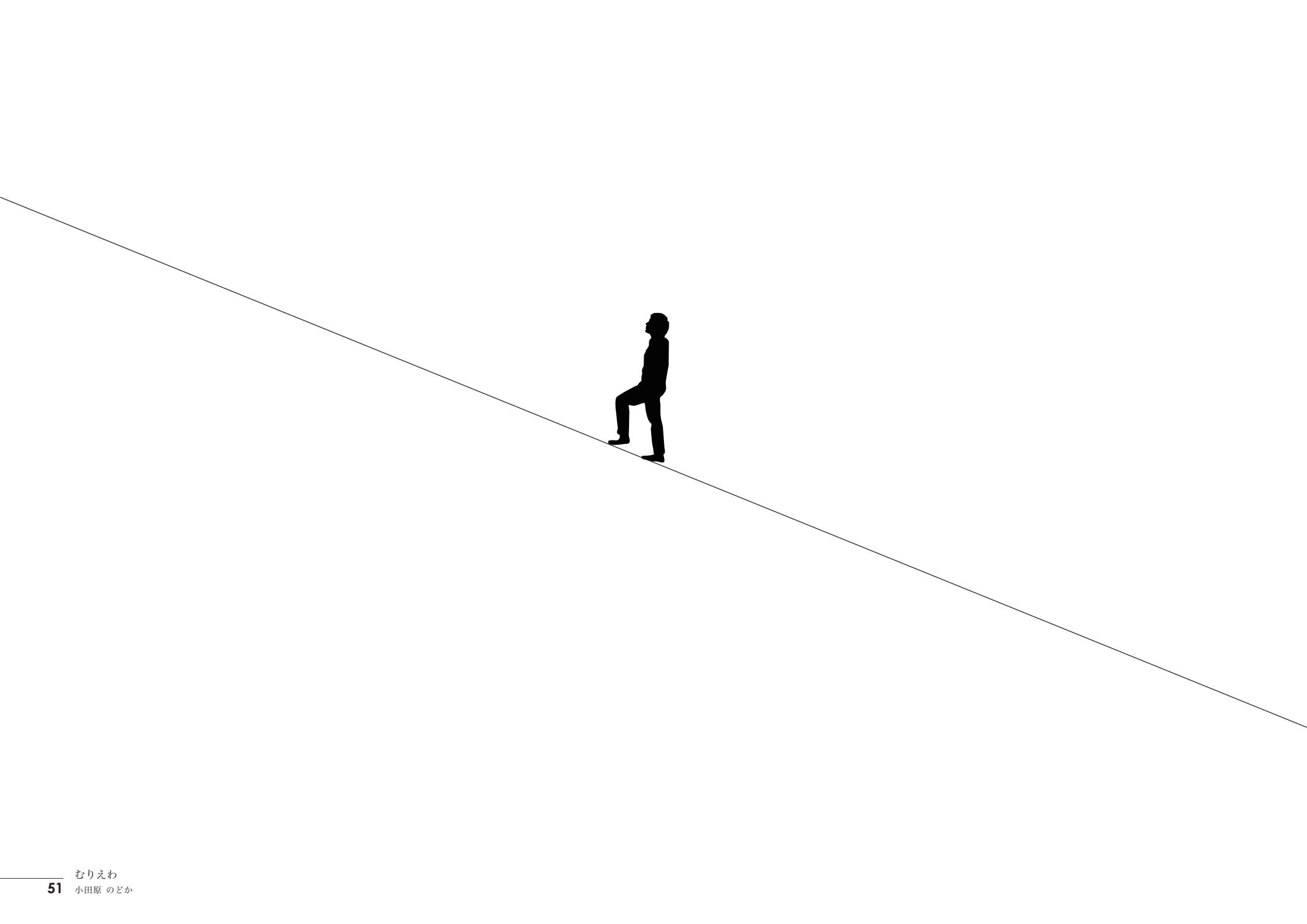
ぷるぷるすんのさブラザー

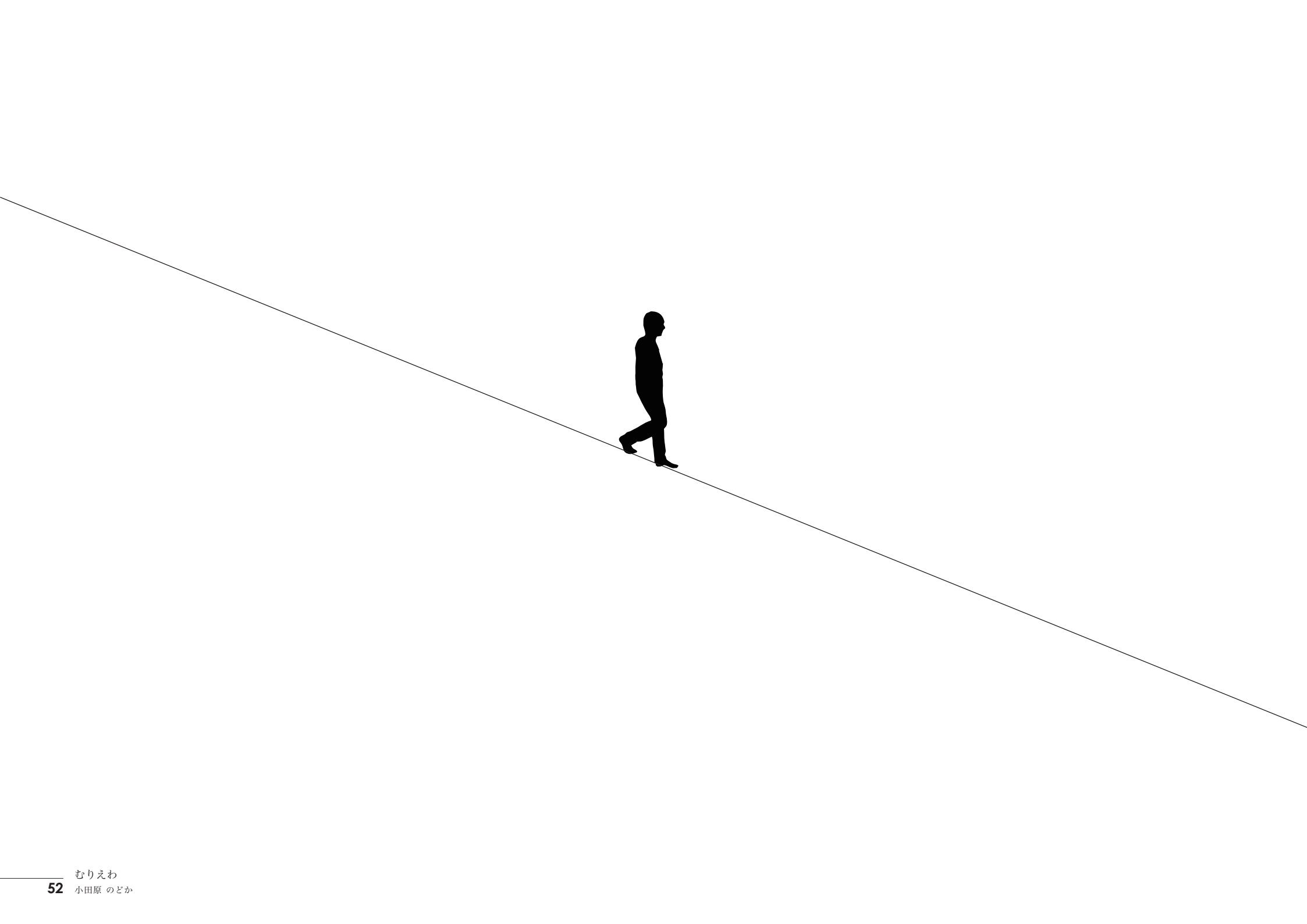
ぷるぷる、さあさあ

むりえわ

小田原
のどか

ヘラクレイトス 断片60 より





上り道も下り道も一つ

の同じものだ・

「むりえわ」では、西田幾多郎、ヘラクレイトス、ニコラウス・クザーヌスを取りあげる。三者にはそれぞれ「対立の一致」という思索の帰結がある。また、乱暴になることを恐れずに言えば、「存在が本質的に自己の非在を基底としてのみ成立する」ことが共通している。今回とりあげたヘラクレイトス。彼の思索の概要を語る際も、「反対物の一致」あるいは「対立の一致」という言葉が用いられる。研究者は「同一」「一致」という言葉にそもそもどのような意図をヘラクレイトスはこめていたのかを論点とする。本質的一致、連続的一致、相互補完的一致、ヘラクレイトスの断片をそれらに分類し論ずることとは可能だが、筆者の望むところではない。筆者の興味は、「なぜ反対物が同一となるのか」にある。ヘラクレイトスにおいては、なぜ同一となるのかは曖昧なままである。次回むりえわでは、なぜ反対物が一致するのかについてひとつの仮定を提起してみたい。

ヘラクレイトス 断片60 より「ソクラテス以前の哲学者たち」京都大学学術出版会

第三回 飛びこむことについて

萩野 亮

海は暗くさざめいている。黒い岩肌に突き出した木製の台から、少年たちが着衣のまま次々に海へと飛びこんでゆく。走っては飛びこみ、また走っては飛びこむ。飛びこんだ少年は、みな満足そうに岸へと帰り、岩肌をのぼってまた海へと走る。

陽は沈もうとしている。海辺でのその日のあそびを終えるために、ひときわたのしい、この飛びこむことを、少年たちはくりかえしあそんでいるのだろうか。濡れそぼる横縞柄のいろいろのシャツ、彼らが何人いるかさえ、じつはさだかではない。

少年たちは楢円を描いている。飛びこんでは波をかき分けて岸へ帰り、また走るところへと戻るために、彼らはひとつの絶対的な暗闇を経験する。トンネルを通過するたびに、そうして少年たちは飛びこんだことをすっかり忘れてしまう。

飛びこむことはくりかえされる。反時計回りの、齧られた円の痕跡は、始まる前からそこに在り、語り終えられてなおそこに在る。いまでも少年たちは同じ海に飛びこんでいる。

*右の文は、『水浴』（リュミエール兄弟／一八九五年）をもとにし、またそのフィルムに向けられている。

イベント告知

骨伝導

「朗読ではなくライブでもなく」Vol.1

6月18日 土

開場 19時00分 開演 19時30分

国分寺 live cafe glee

<http://glee.jp/>

¥1500円＋ワンドリンク

あくまで詩人の「朗読会」ではなく、かといって「ライブ」でもないもの、演奏がことばのBGMになるのではなく、ことばと拮抗しあう空間を目指します。

会場は国分寺のライブカフェ「glee」。ぜひふるって参加ください。小さな会場（最大25人収容程度）ですが、予約は行いません。お早目のご来場をお待ちしております。

読む人：山田亮太、橘上、カニエナハ、生熊源一
弾く人：谷京子(Sax)、Kanna(Dr)、金子鉄夫(Ba)

Vol.1

「朗読でもなく、ライブでもなく」

骨伝導

弾く人
谷京子 (sax)

Kanna (dr)

金子鉄夫 (b)

骨

ダンス企画

読む人

山

田亮太

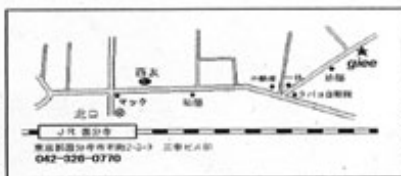
橘上

カニエナハ

生熊源一

国分寺live cafe glee
6/18(土) open 19:00 start 19:30
¥1,500+1drk

連絡先：生熊
ikumagenichi@gmail.com
08055365102



編集後記

今号より編集委員としてあたらしく「骨おりダンスっ」に加わることになりました、鈴木と申します。ここまで書いて、なんかさつきからくさいなと思って流しを見てみると、3日くらい放っておいた食器や生ごみが腐つくさいにおいを放っていて、これはいい加減にしないと死ぬってことで30分かけて片付けたら洗剤ですっかり手が荒れてしまいました。これが詩を書く手なのだと思い、ハンドクリームをこれから買いにしようと思います。そんな感じで、これからよろしくおねがいします。(S)

4号と6月18日のイベントでもって、企画編集から一旦離れることになりました。9月からロシアに留学するためです。軌道に乗ってきたところで離れることについては色々と思うところもありますが、自分の手を離れても続けていつてくれる同志がいることについては嬉しくもあります。今後とも、骨おりダンスっをよろしくお願いいたします。(I)

骨おりダンス

詩誌 骨おりダンス vol.04

編集長：生熊源一
編集委員：金子鉄夫 + 萩野亮 + 吉田恭大 + 鈴木一平

発行日：2011年6月15日

デザイン：三澤水希

連絡先：zoe37013701@yahoo.co.jp(金子)

次号：9月初旬発行予定